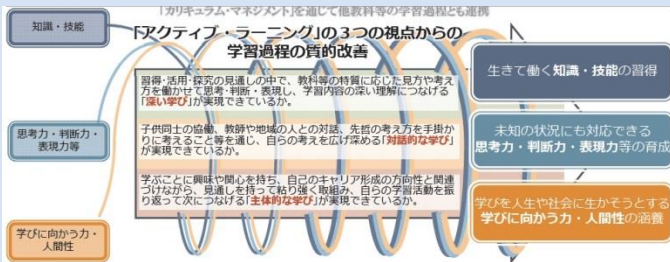


# 南北300kmの教育

## 「主体的・対話的で深い学び」の実現を！

次期学習指導要領では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの資質・能力を偏りなく育成するよう、単元や題材などの内容や時間のまとまりを見通しながら、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善が求められています。



[文部科学省ホームページより]

ぜひ、次の項目で授業を振り返ってみましょう。

### 1 主体的な学びの実現に向けて

- 本時で身に付けさせたいこと、めあて、学習活動、振り返りの内容がつながっているか。
- 児童生徒が見通しをもって学習に取り組める手立てを行っているか。
- 学習後に「何が身に付いたのか」を実感し、生活や次の学習につながる振り返りになっているか。

### 2 対話的な学びの実現に向けて

- 「何を考えさせたいか」など、目的を明確にして話し合いを行っているか。
- 自分の考えをもつた上で話し合いに臨ませているか。
- 話し合いの目的に応じて、学習形態(ペア、グループ、全体)を工夫しているか。
- 「比較する」、「分類する」など、話し合いを通じて児童生徒のものの見方や考え方を深めたり、広げたりする手立てを講じているか。

### 3 深い学びの実現に向けて

- 単元全体や一単位時間の中で、どのような見方・考え方を働かせるのか具体的にしているか。
- 学習したことが日常生活や他教科等の学習に生かさせることで、学習に有用感を感じたり、確固たる知識として構造化されたりしているか。

## 人権教育は、学校教育の基本です！

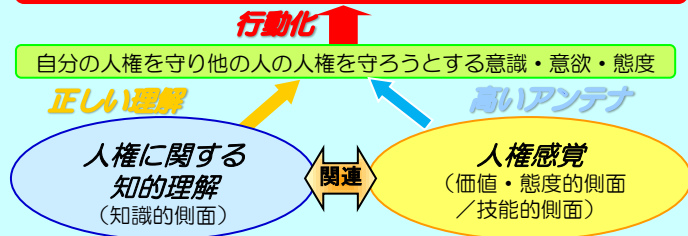
新学習指導要領の前文には、「これからの学校には、教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とあります。これを受け、学校における人権教育の目標を下記のように決めました。

児童生徒が、

- 発達段階に応じ、人権の意義・内容等について理解するとともに、
- 自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることができるようになり、
- それが、様々な場面等で具体的な態度や行動に現れるようにすること。

そして、身に付けたい資質・能力を次のように捉えました。

自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践的な行動



各学校では、次の2点を重点事項として取り組みましょう。

- 1 「チーム学校でつくる人権教育」の推進
- 2 「子ども一人一人の育ちを全力でつなぐ教職員等」の育成  
教職員の基本姿勢=Mom!

- M 子どもたちのありのままを「見つめる」
- O 気になった子どもの背景に「思いをめぐらす」
- m 見えてきた課題と「向き合う」

## 日置地区フレッシュ研修

他校種参観...7月10日(火)、串木野養護学校  
宿泊研修...7月24日(火)~27日(金)、南薩少年自然の家  
県立薩南工業高等学校

日置地区内小・中・高等学校10人の新規採用教員を対象に、県立串木野養護学校において「他校種参観」を実施しました。また、「宿泊研修」は、特別支援学校の新規採用教員を加えた11人で南薩少年自然の家と薩南工業高等学校を会場に、南薩地区と合同で開催しました。

参加者は、様々なふれ合い活動や体験活動等を通して、教師としての資質の向上を図ることができました。



[互いの製作物を発表し、交流している様子]

## 地区小学校ステップアップ研修

8月7日(火)、東市来文化交流センター

日置地区と南薩地区の小学校教諭7人を対象に開催しました。

研修当日は、今日的な教育課題や生徒指導、人権同和教育、特別支援教育などについての講義の後、対象者が選択した2教科について教科別に研修を行いました。

教科等別研修の指導者は、管内の教頭先生や、先進的な取組を行っている先生方をお願いしました。

本研修を通して、対象者の教育公務員としての職責感を高めるとともに、資質の向上を図ることができました。



[教科別研修(国語科)の様子]

## 地区指定「キャリア教育」研究公開

7月12日(木)、日置市立土橋中学校

土橋中学校は、平成29～30年度の2か年にわたり、地区「キャリア教育」研究協力校として、研究主題「何事にも目標をもって取り組むことのできる生徒の育成」を設定し、研究に取り組んできました。

公開当日は、公開授業として全学年による職場体験学習発表会の後、研究発表、研究協議が行われました。土橋中学校では、小規模校のよさを生かしながら、鹿児島大学教育学部附属中学校との交流を進めたり、教育課程に職業観を育成するための職場見学・体験を系統的に位置付けたりと様々な教育実践が行われていました。

公開参加者にとっても大変参考となる研究公開となりました。



[職場体験学習発表会の様子]

## ふるさとを興す保健・福祉学習大会及び組織・教育・食料・環境学習大会

8月24日(金)、いちきアクアホール

大会には、約500名の地域女性団体連絡協議会員等が参加しました。前半の保健・福祉学習大会では、県民総合保健センター所長の桶谷氏が、高齢化社会の中で、いかに健康寿命を延ばしていくかについて講演され、参加者らは熱心に聞いていました。後半の組織・教育・食料・環境学習大会では、いちき串木野市食生活改善推進員連絡協議会長が地域での食生活改善を目指した取組について、いちき串木野市PTA連絡協議会副会長が家庭教育や学校・地域との連携等の取組について、東市来地域女性連絡協議会長が活動や組織の在り方について発表され、フロアと壇上で活発な意見交換がなされ、充実した学習大会となりました。



[事例発表の様子]

## 地区PTA正副会長研修会

7月7日(土)、日置市中央公民館・いちきアクアホール

地区PTA連絡協議会の研修会を日置市といちき串木野市の2会場で同日に開催しました。日置市P連は、鹿児島市立長田中学校の常深校長先生を講師に、「あなたのキラリにびっくりポン！～オンリーワンの子育てをめざして！～」の演題で講演会を実施しました。講演では、子どもの自尊感情や自己肯定感を育むことの大切さやプラスの見方でよさを伸ばすことなどについて語られ、参加者が子育てへの自信や勇気を持つことができました。また、いちき串木野市P連では、鹿児島大学の園屋教授を講師に、「大人も子どもも考えよう！ネットの安全で適切な使い方」を演題とした講演を聞き、その後、「保護者の役割と具体策」をテーマに、参加者全員がグループに分かれ、真剣な協議がなされました。

どちらも会員の子育てに対する思いが高まる有意義な研修会となりました。



[日置市PTA教育講演会の様子]

## 英語教員スキルアップ研修会

6月26日(火)、東市来文化交流センター

8月9日(木)、東市来文化交流センター

本研修会は、グローバル化に対応した人材の育成を強化するため文部科学省が推進している英語教育推進リーダー中央研修を受講した教員による研修内容の伝達を通して、地区内英語教育担当者の英語指導力の向上を図るために行われています。

今年度は、鹿屋小学校の古城早紀教諭を講師とし、管内の小学校教諭15人が、教室英語、単語や表現の学習、絵本や歌の活用などを学んでいます。

各小学校においても外国語活動及び外国語科の研修をより一層推進していただきたいと思えます。



[小グループに分かれた実技研修の様子]

## 涼風

「手をつなぐと心もつながる」

鹿児島教育事務所 指導課長 大戸剛志

「『子育ては、何でも一人で頑張ります』でも、子育てを一人で抱え込むのは、協力を求める努力を放棄しているのと同じです。ある子育ての講演会の講師の一言でした。」

確かに、人間には限界があり、すべてを一人で行うとすると、体が壊れるのは時間の問題なのです。また、その講師は、「弱音を吐かない親が、親らしいのではなく、弱音を吐く親のほうが、親らしいことです。」と話されました。

子育て中の親（大人なのですが）には、未熟な部分がたくさんあり、自分の未熟な部分を素直に認め、周りに協力を求める事が大切なんだと感じました。弱音を吐いて、どんな周りに助けを求めたほうが、自分が楽になるだけでなく、多くの人と関わることに、刺激の種類も増え、子どもの成長にも好影響になると思えます。

親は、子どものために、つまらないプライドに執着して子どもの可能性の芽をつぶさないためにも、弱音はどんどん吐いて良いと思えます。

このことは、教育の現場にも言える事です。先生方は、学校での様々な課題や問題を一人で抱え込まずに周りの上司や同僚、保護者、地域の方々と連携して対応する事が求められています。

私も含め先生方も未熟な部分があり、弱音を吐いて周りに協力を得ることが、新たな働き方に繋がると考えます。

みんなで、手をつなぎ、心をつないで、子どもたちの可能性を育ててみるのは、いかがでしょうか。